

むすび

第 3 号

栃木県青年神職むすび会

10 周年 特集号

発行所 栃木県青年神職むすび会事務所
発行人 吉 田 健 彦

栃木県 神社庁 内
印刷所 下野印刷株式会社

一枚の写真

会 長 吉 田 健 彦



昭和元祿の物質文明時代と世の人々から呼ばれた時期は今去ろうとしている。昨年は内外共に大きな日本を揺り動かす問題によって、日本人が、日本を、ともすると忘れがちな昨今の世情でありましたが、ようやくにして、日本人が日本国体を再認識しようとする傾向になってきた事は、喜ばしい事であろう。

そう云う時期に、栃木県青年神職むすび会が、創立十年を迎えたことは、意義深いものがあります。今から十年前の昭和三十七年頃の神社界には、まだまだ青年の声が反映せぬ時代であったようだ。むすび会報の創刊号には、やはり明日の神社界を憂えるようなものが多く目につくが、特にその中で「どっこい百姓神主は生きていく」又「神主老若交代論」等の考え方は今までも傾聴に値するものであろう。そのような先輩等の血のにじむような叫びが、ようやくにして花開こうとしていきます。

昨年第一回青年会議が「神社界における青年運動の在り方について」Ⅱ鎮守の森に集う神職青年の立場からⅡの主題に基づいて開催されました。これもやはり神社界に青年の声を反映させねば今日この世に激しく変ぼうとする社会に立ちあはだかかって行けぬと感じ取ったからなのだろうか。この会議の趣旨に「神社本庁として、時代に即応した今後の神社関係対策を示す

と共に、全国各地の青年神職、氏子青年の声を聞き……云々」とありますが、今までの総代会重点施策より青年層に方向転換した施策は明日の神社界の興隆に大きく一歩前進したものと、大きく評価してよいことであろう。

例えば、個々の神社に伝わる民俗芸能一つを上げて、これを後世の人々に正しく伝える原動力を持つているのは、やはり鎮守の森に集う青年達であり、この青年達は云わば次代の神社を護持する氏子総代の予備軍でもある。従って、これらの氏子青年達と神道青年は互いに手を取り合って、神社界に新しい息吹を送るうではないか。それには、個々の会員諸兄は自己練習し、神職としてのプロ根性を全員各自が持つて欲しいのだ。この根性こそ神社界発展の原動力になるのではないのか、唯だ口先の議論のみだけではなく、我々の使命をよく認識し、青年神職として自覚を持つて行動して欲しい。

某宮司のお話にもありました如く、「今の青年神職には覇気がない、おとなし過ぎ、少し世の中を騒がして、警察に厄介になるものがないのか、先輩連中が頭を下げて警察にもらい下げするようにな元気のよい青年神職はいないのか」と激をよばされたが、まさしく、あの創立当時の記念写真をみてみると、当時会員で結婚しているものは、一名だけで、他の会員は一人身の気軽さも手伝って、大いに明日の神社界を憂えながら若さに

まかせて激論に花を咲かせた時でもあった。あれから十年、当時の会員で今日では独身者ゼロになり、やはり若さから技巧派に変わったようである。会員の中で論議がふつとすると、まあまあ世の中は余りむずかしく又固く考えないでと云った如く、会員相互の潤滑油的、働きに変わってきているようである。しかし乍ら青年神職は若さが売りものであると云う心情は忘れないで欲しい。又この十年の間に、あの一枚の記念写真から三名の故人が出てくるが、まさしく歳月の流れは、早くも、遅くも、感じられ、この会の十年の歩みには、種々の喜怒哀楽の想いを残して過ぎようとしている。それは、明日の神社界の発展を願って、大きな足跡を残した。

昨年むすび会が主催しました「恵まれぬ子らに愛の手を」の慈善公演は、神社庁長をはじめ神社関係者各位より暖かい御理解と御援助を賜り無事盛大裡に終えまして、当初の目的が達成されました事に会員諸兄が互いに「なせばなる……」の信念のもとに対外的活動をこれから推進して戴きたい。それはマスコミを利用しての売名行為ではなく、神社神道、青年神職としての使命感に燃え、新しい時代に即応した神社神道の理念を打ち立てる情熱を持つて欲しい。このような青年の力を何時の世でも社会は欲している。維新の時の青年の働きのように、ある時は陰になり、又陽になり、その時代時代に青年の力や働きを追い求めている。今こそ創立十年を機会に会員諸兄、神社界はこそって青年神職の力を欲している。明日の神社界の為に今こそ行動を起そうではないか。

青年神職むすび会

創立十周年の新春に寄せて

庁長 喜田川清香



皆さんお揃い健やかに新しい年を迎えられて、心からお慶び申し上げます。

皆さんお揃い健やかに新しい年を迎えられて、心からお慶び申し上げます。その根底となる精神思想の問題にかかっており、日本の心という不動の一点を守り、立向う日本自身の姿勢、

く期待されるところであります。戦後、神道青年会が生れてから二十余年、種々教化の面に活動を続けている中で、わが栃木県では、神社庁教化部の中で青年部として進歩的な「青年神職むすび会」が結成されて、早くも十周年になりました。この間会員諸君はよく団結して各時期に添った青少年育成活動を中心に、教化推進の活動に努めて来られました。中でも昨年の十周年記念に当って

発会当時の思い出

静岡県 神青協 会長 二橋 正彦

昨年国際的にも国内問題でも、大きく揺れましたが、その激動の中で、両陛下には御慈なく有史以来初の渡欧御親善の実を、しかも数々の奇蹟を残して見事にお果しになったことか、又、全国民熱願の沖縄復帰が、いよいよ今年五月に実現をみることとなり、まことに目出度い年を迎えました。

我々神社人の務は、偏向思想に対して、本来の日本に立ち帰す為に、皇室を中心にした国民精神の昂揚運動によって国民の民族意識を昂め、世界や社会の移り変りにも動じない日本人としての自覚を持ち、美しい伝統の遺風を尊び、国の発展を願う国民共通の連帯精神を以て団結し、断乎として祖国を護りぬく決意と勇気が国民夫々に得られるよう積極的な努力をせねばなりません。

むすびの会が結成されて十周年を迎え、当初の一員であった私に、感想を書けとのことである。けれど十年前の記憶は、ちよと静岡岡県に転勤する同時期である為うすく、念頭に浮ぶ一、二点を思い出すままに書いて見る。

方々と活動を共にして親交を深め、更に青年の向うエネルギーは一神社のみの活動範囲ではもの足り無くなり、当時、日光東照宮の並木青年会、二社（東照宮、二荒山神社）神職青年会、又宇都宮市内の各会社等の親善野球大会、近郊町村地域青年団とのバレー大会、親睦旅行、登山等と活発に動いたものである。とくに日光へは春夏秋冬を問わずによく出向き、そんな中にも当時、日光東照宮の荒川さんや、日光二荒山の横瀬さん外、現在在職している先輩後輩の方々と親睦が出来上り酌交も時にはあり、同じ神社界のヒョコとしての悩み、苦勞等に話が咲き始め、更には神社庁当局の批判へとエスカ

しかし、昨年にも増して引続き複雑深刻な様相を呈している現情勢に対処して、我が国の進路を確立する為に、本年ほど重大な年はないといわねばなりません。依然として日本国民である自負心を忘れ、国民共通の意識を失い、不和分裂して激しく対立している現況は、正に危機が痛感されます。

混乱激動の中で、今年新年の初詣には、全国民の半数に近い人々が敬虔な参拝をしたと報道されたことは、祖先の遺風を尊び継承する美わしい心が心中深く残っている証拠で、神社の祭りに集う一体感に立帰り、お互い温い信頼感が得られることを物語っています。益々この心を甦らせ、伸長するよう我々の使命に邁進せねばならぬ大切な時であり、とりわけ活動に富み前途有意な青年諸君に大き

前奉務神社であった宇都宮二荒山神社でも氏子青年会が結成され活発な活動を展開して、自分も微力ながら氏子青年の

「めぐまれない子等に愛の手を」差しのべた公演事業の稔りの為に払われた、皆さんの一方ならぬ御苦勞に衷心より感謝しています。今後共よりよき教化計画を樹てて下さるよう願います。十周年に亘る活躍に敬意を表し、今後の真剣な活動と健やかな発展を心から期待してやみません。

思想の混乱、過激派学生の殺伐極まる無責任な騒動等、社会秩序の破壊行動が頻発しているこの時に当って、諸重要案件の解決には、国の本が立たなければなら

りません。その根底となる精神思想の問題にかかっており、日本の心という不動の一点を守り、立向う日本自身の姿勢、

く期待されるところであります。戦後、神道青年会が生れてから二十余年、種々教化の面に活動を続けている中で、わが栃木県では、神社庁教化部の中で青年部として進歩的な「青年神職むすび会」が結成されて、早くも十周年になりました。この間会員諸君はよく団結して各時期に添った青少年育成活動を中心に、教化推進の活動に努めて来られました。中でも昨年の十周年記念に当って

方々と活動を共にして親交を深め、更に青年の向うエネルギーは一神社のみの活動範囲ではもの足り無くなり、当時、日光東照宮の並木青年会、二社（東照宮、二荒山神社）神職青年会、又宇都宮市内の各会社等の親善野球大会、近郊町村地域青年団とのバレー大会、親睦旅行、登山等と活発に動いたものである。とくに日光へは春夏秋冬を問わずによく出向き、そんな中にも当時、日光東照宮の荒川さんや、日光二荒山の横瀬さん外、現在在職している先輩後輩の方々と親睦が出来上り酌交も時にはあり、同じ神社界のヒョコとしての悩み、苦勞等に話が咲き始め、更には神社庁当局の批判へとエスカ

レポートしていった。

青年神職の場は神社庁教化委員会の青年部としてその存在はあって無きにすぎず、体制を修正しない限り我々神職青年の主体性ある活動は出来ない」と声を上げ、青年の存在を再認識してもらうためにも何らかの形で、又少数でも良いから斯界の将来のために懇談研修の会を作ろうと叫んだ。

当時二十代の青年は県下神職会の十％程度(兼務含む)にすぎなかったと思う。にぶい汽笛を鳴らすローカル線の汽車だ。老人のロマンチズムだ。落日の美しさのみの神社界だ。……等怒り、同志の集會も回を重ね斯道昂揚の憂いは大きくなるばかり、これから歩んでゆくとするものにとってはたまらない焦燥にかられ、この焦燥をよりよく生かすために当時、前記した二氏の外、尼利市の宮原氏、鹿沼市の中島氏等が発起人となって、むすび会(当時仮称栃木県青年神職会)が生まれた(その後について転勤のため不明)。

思うところ、当時はふり返りつつ神社界に要望したい事は山ほどあるが、「一障りのある事も多いのでさけるが、」一國の将来はその國の青年を見ればわかる……」とまで云われる如く、斯界にあってもこの言葉をよく考えてほしいことです。最後に神社界(特に別表神社)の先輩諸兄にお願いすることは、職階を問わずに青年を外に出す機会を多く設けて、

もつと青年の心に深い関心を寄せて頂くことと、時局重大下の折、他の青年団体

マニラ旅行記

副会長 人 見 昇 三

今年は余りよい年でなかったなあ、よし厄払いも兼ね遠出の旅にでも出てみるか、幸い誘ってくれた人もあったのでよい機会と思い、十二月も押し迫った十五日、約二週間の予定でフィリッピンのマニラへと向った初めての海外旅行、未知の世界への不安と期待の内に六時間はアツという間に過ぎ、マニラ空港に到着、機内の窓より出向えの人を見つけ胸をなで下ろす。それにしても国際空港とは名ばかり、羽田とは比べものにならない程のおそまつさ、二十キロづつめトランクいっぱい、荷物も両手にも抱えきれない程持ち気温三十度の中へ、その上、冬仕度、身体中、汗だらけになりながら、マニラの人となった。

お上りさんよろしくきよろしく、見る物、聞く物、珍らしい物ばかり、ジプニーと云ってジープを改造し、やたらに飾り付けたバスや、二人乗りタクシーのサイドカー、タクシーと云えば、ベンツに代わり今では、ブルーボードの一人舞台。道路はよく整備され、道巾は広く、

の動きを早く勉強してよき指導性をお願いしたい。(静岡県護国神社勤務)

両側の街路樹には、やしの木が茂り如何にも南国的な感じがする。又一步郊外に出ると一面、やし、バナナ、パイナップルがなっている林を見る事が出来る。中でもマンゴの味は日本では味わえぬ格別の味であった。ここでの主な産業は、

戦前栄えてあったマニラ麻は見られず、砂糖キビ、米等であり、ラワン材の産地である所から、みやげ品として木彫りの民芸品や、ビナグと呼ばれバイナップルから作った織雑品、それに貝細工、葉巻等が作られている。店頭には、日本製品も沢山陳列されて居たが、電気製品の価格等は、日本の倍か三倍もしており、日本で三、四万のテレビが、七、八万といった具合で、現地人の収入では仲々、手に入らない様である。現地人の生活水準は低く、メイドが七、八千円で働ける。一般家庭では、テレビ等は余り普及されて居らず、映画館が盛況なのは日本の十年前を見る様な気がした。映画館では、映画の代り目には画面にフィリピン国旗が上り国歌が吹奏されると観客

は、それが終る迄起立している。

国旗、国歌と云うものを如何に大事にしているかを伺う事が出来た。市の中心部にルネタ公園がある。その中央部に革命の人、詩人リサル記念碑がある。記念碑の周囲では、昼夜兵隊二人が銃を持ち、警備を続けて居るのには驚いた。すぐ近くには、サンチャゴ要塞跡がある。

第二次大戦中の旧日本軍との様子が書かれてあり、爆撃の跡がそのまま残され、周囲は芝生が植えられ公園化されている。マニラ市南西にも第二次大戦で戦死した一七、二七七名の米軍記念墓地があり、白い大理石の墓標が整然と並んでいたのが印象的だった。それに反して多数の戦死者が出たのに、日本軍の墓地は見ることが出来なかった。気候は、乾季にあたる旅行に一番適したシーズンを選んで行った訳だが、連日三十度、夜でもクーラーは掛けっ放し、日中は、南国特有の強烈な日ざしで、これでは七、八月頃の猛暑の時は如何ばかりかと思うが想像がつかない。この様な所で生活している現地人達は、その日の生活が出来ればよいのであろう。ランニングにパンツという仕度で一年中過せ、住む家は雨、風をしのげる程度の住いである。勿論貯蓄等という考えはなさそうである。

日本とは比べものにならない程の自然の美しさには感動させられたが、その他のいろいろな面で遅れているマニラを見て、日本のよさを改めて思った。

とちの実学園より

梅雨の候となり、うつつとしい毎日が続きますが、皆様方には御健勝の事と存じ上げます。

去る六月八日チャリティーショーには、多数児童のご招待を戴きまして有難う存じました。子供達も思いもかけず華やかな舞台を見る事が出来まして、大喜びでした。子供達にとつて、常日頃テレビでよく見ているスターを目の前に見るという事が、どんなに感激であつたか計り知れません。

むすび会員の皆さん
ありがとう

子供達は歌が大好きであり、歌手の顔や名前だけはよく知っておりますが、そのスター達を目の前にして歌を聴く事が出来たのですから、もうこれに勝るものは無いと思われま

本当に有難うございました。本日お写真到着致しました。有難く拝受致します。

光 星 学 園
松風荘生徒代表

陰 山 敏 雄

前略

こんど先生から聞きましたが、皆様のお手紙がたくさんの御寄附をいただき、それでぼくたちのためのミシンを買ったそうです。どうも有難うございました。

ぼくたちの施設は那須高原に在り、たくさんの牛を飼っていますので、作業は主に牧畜の手伝い、農耕等外での作業が多く、作業衣がよごれたり、破れたりすることが多いので、先生方のせんたく、つくり物の仕事が大変です。それで大きなつくり物は先生方がして下さいますが、小さなつくり物は、成可く自分たちでなおすよう指導されて居ます。今迄、足ふみミシンで簡単ならぬミシン



にちミシンを
たかさん
からいただきました

ぬい等を習って来ましたが、そのミシンの調子が悪いのを機会に、こんど御寄附のお金で電動ミシンを入れ、今、少しづつその使い方を習っています。今までは

足ぶみでしたので、最初に車をまわし、始める時一寸した足のふみ方で今までもまわっていたものが左にまわったりしてむづかしく思いましたが、電動ミシンは、ふまなくても車がまわるのでらくです。ただ失敗してもすぐ止められないので大へんです。それでも先生について居てもらって少しづつでできるようになりました。皆様からの御寄附のおかげで、大きなつくり物等は先生がどんどんおして下さいるので、少しづつ破れても心配なく作業ができます。

さようなら

社会福祉 大和久学園
園長 植 村 英 治

謹啓 盛夏の候、貴会益々ご隆盛の段お慶び申しあげます。お陰様を以ちまして、当学園が創立以来十年を経過しましたが、その間、県内はもとより、社会全般に亘り、各位の深いご理解と、温かいご援助を賜り、子ども達共々、日日、楽しい生活を送らせていたゞきます事を、衷心より厚くお礼申しあげます。

現在百二十名(内、重度精神薄弱児二十名)の子どもの保護指導に当っておりますが、我々職員としては、この子等に夢を与えてやりたいと、日頃念じておりましたが、計らずも此の度び、県・社協のご斡旋により、貴会から多額の寄



送られたテレビに見入る子供たち

附金を頂戴いたしました事を深く感謝申しあげます。

早速職員一同相談の上、重度精神薄弱児施設(わらび寮)の為にカラーテレビと放送設備を取りつけていたゞくことに相成りました。ところが、少なからず予算より超過したように聞いておりますが、その分は栃木シャープの社長様が心よくお引受け下さいましたので、見事に完成した次第であります。

只今は、わらび寮の子ども達も毎日音楽を楽しみ、カラーテレビに興じております。これも偏に貴会のご厚情の賜と厚くお礼申しあげます。

頂戴いたしました機械と子ども達の近況を写した写真を同封いたしますから、何卒ご覧下さい。

会員の皆様にもよろしくご厚声下さいますようお願い申し上げます。

設立の過程

初代会長 横瀬勝寿

本会設立の十年を祝い、こゝに結成に至る当時の経過の一端を諸兄の書翰と共に日誌をたどりながらその半歳を記し、多くの方々のお笑覧に供したいと思ひます。

本県に青年神職の会を作ろうと云う話の始まりましたのは昭和三十六年の残暑の頃であつたと思ひます。今は亡き荒川本一君との雑談の中に芽生えました。彼やその他の諸兄等と逢う度に纏綿話し合われ、その型が浮かび上がって来ました。そんな頃広島県の桜井君より(九月八日晴)次の様な便りが参りました。

「この死した神道界を我々若き力で少しでも発展させ、神社神道を日本本来の姿によみがえらせるべき目的で、この会(なおよび同人会)も出来たのであります。若き神主の団結と錬成こそ、斯界発展のポイントと思ひ、微力ながら努力しているのではありません。

広島県佐伯郡廿日市町上平良速 谷神社宮司桜井正弥君書翰より「この便りを拝した時、如何に各地で青年神職が立ち上がっているかと思ひ、本県に会を組織しようとするのも、その一

連の時期を脱していない感を一層強くしました。

二十四号台風の接近した九日、荒川君より組織結成に関する意見書翰を受けました。

「例の青年神職の懇談会の件について、速やかに進展されるよう一段の御努力を願ひます。

勿論、若い者の団結は、その動きに對して、元老中年の注目を引くことは、あらゆる社会に於ける共通の現象であつて問題にしないではないと思ひます。また同志の集りですから精銳主義をとり、裸で話し合える人が第一の条件と思われまます。その動向や協議事項は秘密事項を除き本社本庁、地方神社庁、国学院などに公報し、独善独走しないよう連絡をとるべきだと思ひます。

荒川本一君書翰より「

既にこのころより会結成に関する批判が口にされる様になつていた事は右書翰にて伺える事でありまます、結成への情熱は日一日と高まり、十月十四日、本社庁大麻頒布式並額賀東照宮権宮司さん始

め諸先生方の一、二級昇身祝賀会の「中村」にて行なわれましたその午後、荒川君と落ち合い青年神職時局懇談会結成準備委員会開催等について夜ふけまで検討しました。その後、着々と事は進み、発起人の選定とその諒解、挨拶文、趣旨等具体化しましたので、中心の方々十月三十日付をもつて御案内申上げました。

「拜啓晩秋の候貴職には弥益々御清祥のことと大慶に存じます。

本社庁も設立十五年を数えました。神社もまた、ローカル線の汽車のように、にぶい汽笛を吹きならして十五年――その生命を支えるものは、老人のロマンチズムのみ、勿論、ロマンチズムも神社信仰の大きな要素ではありますけれども、夕日の美しさに似て、滅びゆくものの美しさでしかなかったならば、これから、その道を歩んでゆこうとするものにとつて、たまらない焦燥にかられることと思ひます。

この焦燥を發展的に打開するため、また合理主義にもとづく近代社会への積極的な挑戦の場として、若い神職が一人より二人、二人より三人相集い、相語の斯界の将来のために懇談研修するを目的として、左記趣旨のもとに栃木県青年神職会(仮称)の発足に際して貴君に御相談致したく

と き 十一月七日(火)午前十時
ところ 本社庁会議室
必ず御出席下さるよう御願ひ致します。

趣旨

現今の世状を鑑るに青年神職の活動は余りにも停滞的にして斯道発展の為に重大なる影響を及ぼさんとするは吾等の是とする処に非ず、然るに、将来に於ける斯道の昂揚を憂い、吾等青年神職が此処に立ち上り全国的組織の結成を成さんとするは早きに非ずして当然の責務なり。

然処、昨今同志賛同のもとに県青年神職並にその他賛同者の地方組織を築き時局の懇談研修を重ねつつ全国組織結成への第一歩を踏み出さんとするは誠に意義あるものにして将来に光明を投げるものと信ず。依て、かかる趣旨に賛同賜り当会発足の為に絶大なる御高配をおおぐものなり。

昭和三十六年十月三十日

発起人

- 横瀬 勝寿(佐野)
- 松田 一郎(日光)
- 山田 文明(宇都宮)
- 中島 敏幸(鹿沼)
- 宮原 功(足利)
- 荒川 本一(栃木)

これと相前後して、十一月二日(晴)

宇都宮二荒神社の二橋君より激励と切々に訴える情熱の長文が送封されて参りました。

「思うに大兄の力をかりて我々若人の同職の話し合い場、懇談教室とも云うべきものが必要かくべからざるものになって来たのです。単に自分自身の生活の問題では無く広く県内、あるいは日本の青年神職との団結をはかろうではないか。一般社会から見離された状態におかれた神社界を将来の神社を維持する若人が、上からのおさえつけでまわっている様では益々危険だ。ここで同胞若人の集が是非必要となってくる。否必要どころか今ではおすぎるほどだ。でもおそくてもやがて芽の出る種はあるのだ。」

……中略……

田舎の神社で後継ぎが神主をきらって、老人が二十三十と神社をもつのだ。今はそれでよいが、先十、二十年とたったら一体誰れの神社になるのだ。おそらくなくなるでしょう。そうなったら、神社はつぶされ田畑となってしまう。十年、二十年先まではない。今、ここにあるのだ。その様な問題が。

二橋正彦君書翰より

彼の数千字に及ぶ長文を読み返えずにつけ、今更の様に将来を思う当時の真直

ぐな青年の心情が思い出されるのであります。又、五日(晴)には宮原君より書翰を頂いておりますが残念な事に今日いづれか見つかっておりません。然し、二橋君同様神社界によせる心情であったと思えます。

これに反して、世間の批判は愈々激しく、喧々ゴウゴウの様で「天気晴朗ナレド波高シ」の思を胸に十一月七日(快晴)をむかえました。十時神社庁での初の青年神職会結成準備委員会が開かれました。出席者は荒川、永沢、藤岡、松田、吉田、提箸、山田、中島、伊藤、金子、田中、横瀬の十二名でした。初会合としては本当によく集まってくれたものと今でもその感激を思い出せるのであります。荒川君を座長として会議は進められ、発起人を代表して、私より今日に至る迄の経過を報告し、その趣旨を説明して一同の賛意を得る事が出来ました処で留々協議を重ね会の進むべき道とその性格又名称等々今日の会則の原案とも申すべき基本的態度を打ち出したのであります。更又、今後の委員会運営の為私をして委員長に選任し、全員一致団結のもとあらゆる苦難をのりこえ発会の為に準備を進める様申し合せたのでした。

「若年神職の集いに顔を出させて頂

き、大変有意義な一日でした。

……中略……

今後も苦難の道とは承知の上努力し前進して行く気持で居ります。

提箸克之君書翰より

当時の関係者全て腹をきめ、腰をすえて小舟を大海に乗り入れた事が手に取る様に解かるかと思えます。十六日には吉田君が唐沢山に私を訪ね、一身努力する旨の言を伝えてくれましたし、準備委員長の重責にある私としては誠に心強いものがあり、大小の批判の声に打ち克つ自信と事を成し遂げねばならない強い信念とを持つ事の出来ました事は誠に有難い事であり感謝に堪えないものがありました。

多くの神職の方々には本会設立の本意が政治的結社であるかの様に又、神社界誹謗の団体でもあるが如き誠に非認識的な受け留め方をしておった様でもありません。当時の石原庁長さんも非常に心配され十二月二日神社庁にて開催予定の準備委員会について再考する様中島さんを通じて神社庁に連絡のあった事を江部さんから電話にて申越して参りましたので、早速庁長宅に連絡を取りまして、風評されております如き政治結社的性格のものでなく、あくまでも将来の神社界を思い県内の青年神職が互に親睦と研鑽を積むことを目的とし、神社庁の教化体制に全面的に協力して行こうとする性格の

御社頭授与品奉製

- 高級樹脂製御守
- 高級金欄製御守
- みくじ機械
- 交通安全御守
- ビニール袋入り
- 全自動式開運号
- 十二支御守等各種
- 錦袋守等各種
- 二十円式・特許申請中
- 結婚式引出物・記念品・各種工芸品・貴金属品

○全国の御社様を毎月巡回御用を承っております

株式会 社 日 本 工 芸

代表取締役 中村北翠

〒311-41 茨城県水戸市中丸町648

電話 水戸 (0292) 51局5621

組織結成である事を強く訴え庁長の特段の御高配の上来る二日の会議の開催の變更なき様お願い致しまして、その諒解を得たのであります。

「神社及教化委員の方々の誤解も解けたらしく当宮の中間層も協力援助の方向に動いて居ります。前進する為にはいささかの抵抗はあろうかと、想っては居りましたが。」

荒川本一君書翰より

と十一月二十九日に申し越してあります事は興味深い処です。此の辺の時期に神社界の多くの方々深い理解を示し且、委員会の動行に協力的でありましたら今日誠に強力な神社庁の青年部組織が出来上って居り、昨今の社会の諸実状に十分対処する事が出来たのではないかと誠に残念に思っております。十年は過ぎてしまえば短かいが、育成しつゝ過す十年は余りにも長く歳しいものがあり、今日ではその立ち遅れが如何ともしがたくなつておる事は遺憾と思わざるを得ません。こうした外部の重圧と戦い正道の強さを信じながら十二月二日神社庁にて荒川、松田、吉田、二橋、中島、田中、江部、是則、横瀬等九名の出席のもと第二回結成準備委員会が開催されました左の二議案について慎重な評議がなされました。

一、会則案の再審議に関する件
一、会結成に関する誤解的風評に対する

対策の件

会則案については第一回委員会の際、会員相互の親睦、学の上、神社庁諸事行に対する全面的協力の点を基本とする会則大綱が話し合われましたので未だ不備なる点の整備がなされ、今日の如き会則案（一部発会後改正されている）の決定をみました。又二号議案につきましては、会設立の目的が政治的思想を容した団体の結成でない事を再確認し、且、会則案にうたわれた目的と性格を大前提として会結成の促進を成す事で議一決し、その対策として左の三点を決議したのであります。

- (一) 神社庁役職員、総社宮司、教化委員等に挨拶状並会則案の送封
- (二) 石原庁長に対し正式の会結成に関する申入れ、今後の御支援を願う事
- (三) 総社宮司に対し、関係青年神職の出向方の御高配を願う事

散会后、評議の通り荒川、江部、横瀬にて石原庁長を古峯山に訪ね会結成に対する執行部の考えと今迄の経過とを申述べて格別の御理解と御支援とを願いました。誠に心良く諒解して下さい、将来神社庁翼下の団体として行動出来る様配慮する旨迄約して下さいました事は誠に有難い事でした。この庁長の約定に依つて事実上会の結成とその将来の方向付の基本が確立したと申しても過言ではないでしょう。誤解的風評が事のほか高まつた

一、会則案の再審議に関する取扱の件
一、発会式当日に於ける業務分担の件
一、記念講演の件
一、役員内定の件

ことが、かえって吾々に利したかも知れません。重ねて故石原庁長さんに衷心感謝申し上げます。

こうして波瀾の三十六年も暮れ、思いも新たに新春正月二十二日第三回委員会が開催されました。荒川、永沢、藤岡、松田、吉田、提箸、山田、伊藤、田中、金子、人見、宮原、江部、是則、横瀬の者等は気力充分に議を進め来る三月四日に神社庁に於いて発会式を行う事を決定し、五時より「浜吉」にて盛大な新年会を催したのであります。二月九日、荒川、永沢、松田、吉田、提箸の諸兄等と東照宮に於て会し、発会式に関する諸件を話し合いました。記念講演の講師については諸事情を配慮しまして、富田穰氏を通じて元東京都国民教育課長山口喬蔵先生に依頼致しておりました。先生の手承を得る事が出来ましたので二十二日永沢君にその旨連絡を致して居ります。二十六日には荒川、中島、提箸、松田、田中、金子、山田、藤岡、江部、横瀬等によりまして最終の委員会が神社庁で開かれて居ります。

一、会則案審議に関する取扱の件
一、発会式当日に於ける業務分担の件
一、記念講演の件
一、役員内定の件
発会後の役員については次の様に内定しました。

会長 横瀬 勝寿

ご婚礼／ご披露宴／諸会合／会議場



■ご披露宴はご予算によりご相談に応じます。

冷暖房、駐車場完備
元国幣中社
下野国一之宮・式内名神社・二荒山神社

200名収容の大広間あり。
荘厳典雅 格調高き儀式殿

二荒山会館

字都宮市馬場町1番地 / 〒320 ☎(0286)22-5271(代表)

副会長 荒川本一
幹事 永沢瑞碩
吉田健彦
伊藤七郎
水谷正
是則光興
人見昇三
黒崎健二
稲三郎
今瀬昭夫
山形馨
金子宏一
見目仁朗
宮原功
宮田義丸
山田文明
松田一郎
田中清
中島幸敏
江部修一

議長選出

議長 山田文明
副議長 提箸克之

四月二十六日付

山口喬蔵先生書翰より

山口先生の述の通りわずかな会員と一つ一つの研鑽努力が会の足跡であり、又その足跡が十年の風雪をよく物語っておると思っています。出發当初から深い御理解と御支援を下された喜田川片長さんの御配慮に依り数年前から神社庁の青年部の性格のもとに一部予算ももうけられる様になった事は喜ばしい事でありませう。又今日の神社庁にとりましてもなくてはならない存在になって居ります事は重ねて喜びに堪えません。

「宗教人と現代の青少年問題」

元東京都国民教育課長

山口喬蔵先生

以上

かくして関係各氏、君等の御支援御協力のもと栃木県に将来を担う青年神職むすび会が結成されました。この事は本県神社界に取っても意義ある事であったと思えます。

三時半「みやこ寿し」に於てなごやか
に祝賀会が行なわれて、長くもあり又短かくもあつた記念の日は暮れたのであります。

尚、本文中に諸氏の書翰を御許しなく引用させて頂きました事をお詫び申し上げます。

昭和四十七年二月二十四日

その後関係各氏に発会式の案内状も送封されまして、その準備は万万そろい三月四日をまつだけとなりました。準備委員会の役務も事実上終つた次第です。
三月四日晴、早春とは云えまだまだ寒い頃でしたが事を成し終える喜びを胸に九時神社庁につきました。十時少々過ぎ開会され左に記す様な次第で議は進められました。
一、経過報告 荒川本一
一、仮議長 提箸克之

「御職域についての御考慮拝察に余りありますが、次代を担う新進の皆様方の団結を拝見し、今後協力研鑽の交を積まば自ら窮通の大道は開かるものと確信いたします。

宮内庁
神社本庁
文化財保護委員会

御用達

森装束店

森 近太郎

東京都新宿区十二社416番地
電話 (376) 4631番
振替口座東京38586番

会務報告

- 自昭和46年3月1日 至47年3月1日
- 3月1日 一〇周年記念事業準備委員会
於 古峯神社
- 3月11日 神社庁理事会においてチャリ
ティーショーの説明を行う
於 神社庁
- 3月13日 アオイスタジオ(東京)訪問
出演者等について打合
- 3月13~14日 全国神社青年会議並神青
協臨時總會
於 本社本庁
- 3月27日 総会開催、チャリティーショ
ーの件決算報告等について
於 本社庁
- 5月21日 栃の実学園神棚祭及び慰問
会長外一〇名
- 6月8日 一〇周年記念事業チャリテイ
ーショー開催
益金二〇〇万円を「めぐまれ
ない子ら」の施設へ寄贈す
慈善公演決算報告、並反省会
於 宇都宮二荒山神社
- 7月1日 小林幹事死去につき御家族見
舞に出向会長外三名
- 8月24日 千葉県における関東地区
神社庁野球大会参加一〇名
- 8月25~26日 日光二荒山神社登壇講社青年
部一〇周年記念式典に出席二
名
- 9月26日 日光二荒山神社登壇講社青年
部一〇周年記念式典に出席二
名
- 10月5~6日 神青協中央研修会会長外
四名出席
於 滋賀県多賀大社

- 10月19日 金子幹事今宮神社宮司就任に
つき会長外二名祭典奉仕
- 12月11日 幹事会開催十三名出席
於 宇都宮二荒山神社
- 1月24日 新年会開催会長外十六名出席
於 宇都宮二荒山神社
- 2月10日 建国記念日の丸運動に参加県
内を巡回す

小島先輩を偲ぶ

金子 宏 一

三月五日桃の花の盛りとはいえ、日光では春はまだ感じられぬ季節であります。その春の花に先がけて、東照宮権祿宜(むすび会先輩)の小島重大さんが急逝されました。

先ずもって会員の皆様と共に哀悼の意を表したいと存じます。時に小島さんの人生四十三才の男盛りでありました。河内郡南河内町薬師寺の八幡宮の社家に生れ、昭和二十八年に斯道に志を持たれ祀職の道に進まれてより日光東照宮に奉職し以来二十年、東照宮の中堅神職として活躍されておられました。去る三月四日、仕事先で突然病に倒れ、たった一日の闘病で翌五日現世を去ってしまいました。思えば亡くなる前日(四日)に同僚の稲葉君と共に本社庁に見えられ、いつもと変らぬ笑顔で歓談されておりました。のちに、まったく生命の儂さと言うものを痛感させられてしまいました。この日小島さんは職舎の廻りに植木がほしいのでその植木を買いに行くんだと云って途中本社庁に立寄られ、元気に出掛けられたのですが、次日にはもう二度と帰ること

のない姿となってしまうました。家庭におきましては、小学一年生と四才になる愛児と小島さんより十才もお若い奥さんを残し、さぞ心残りであつたらうと胸の痛くなる思いです。御家族の方にはいかにしてもお慰めの言葉もありません。誠に残念の極みであります。

今は亡き小島さんのお人柄は東照宮はもとより、街内においても福徳円満なる御人として慕われ、親しまれておりました。又ご趣味も深い方で、民笛を初め生花は教授の資格を持ち最近は刀剣、骨董、植木に至るまで広く愛され、特に刀剣、植木などは柴田豊久先生の影響を強く受けられていたようです。しかし、その中でも小島さんの一番愛したのは何と云っても民笛ではないかと思えます。この清らかな笛の音はたびたび慰問した刑務所や少年院をはじめ多くの人々に感動を与え多くの方々の耳に残されて参りました。そういう意味でも私が小島さんを偲ぶにはいつもこの笛の清らかな音色を思い浮かべてご冥福を祈りたいと思えます。

日本を見よう 世界を見よう

旅のコンサルタント

近畿日本ツーリスト

宇都宮営業所
団体旅行センター

転任挨拶

拝啓 陽春の候、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私儀 二カ年に亘る宇都宮二荒山神社の神勤を辞し、郷里の県立村田高等学校に奉職することになりました。在職中は一方ならぬご厚情を賜り厚く御礼申しあげます。道は異なれど目的は同じですのでこれから尚一層の努力をし、より良い社会づくりに邁進する所存ですので今後とも宜しく御指導、御鞭の程、お願い申し上げます。

まずは略儀ながら書面を以って御挨拶と致します。

敬 具

昭和四十七年四月一日

新住所 〒 宮城県柴田郡村田町金谷一
989-13 村田高等学校内
旧住所 宇都宮市馬場町一
二荒山神社社務所内

白 旗 宏 喜

編 集 後 記

。「むすび」第3号一〇周年特集号をお届けいたします。

。御多忙中にもかかわらず御寄稿下さいました諸先輩、会員諸兄に、この場をお借りしてお礼の言葉を申し上げます。

。過日入手した林房雄著『悲しみの琴』の中に次の様な文章がありました。

「すこし以前のことだが、日本と米国の老若男女百名ずつを太平洋をへだてて一つのテレビ画面に集め、種々の質問にボタン押し方式で答えさせる番組を見た。『もしあなたの国が外国の攻撃を受けた時、あなたは武器をとって守りますか』『守ります』という返事は、米人側では95人、日本人側では35人であった。この思いがけない大差に私は衝撃をうけしばらく茫然としていたが、やや長い時間の後に心の平静をとりもどすことができた。これが現状というものであるが、ここまで落ちたら、必ず逆流が起る。敗戦、被占領、戦後教育、民主主義の誤解、これに加うるに、政府与野党合作の『平和憲法』、経済大国、非武装中立、という大嘘が国民の精神にビニール製の袋をかけて作り出した『現状満足感』の現れである。この教育的目かくしと大嘘のビニール袋は必ず破れ去るが、目下のところ国民の七〇パーセント近くが、目かくしとビニール袋の『保護』に自ら満足しているように見える。」

。実は自分もこのテレビを見て大きな衝撃を受けた一人だった。そして今、我々が危機と終末を叫ばなければ七〇パーセント近くの国民は目をさますことなく日本は滅亡への道をたどらなければならぬ。

今こそ「愛国の心情」をふるい立たせる秋である。

「君だけは愛してほしい、この国を」

君だけは愛してほしい、なぜかいま
祖国とさえもだれも呼ばないこの国を」

(黒川正邦)